

RIMINI CONNECT™ FOR OS

RIMINI CONNECT™ ソリューション

» Rimini Connect™ for OS

主なメリット

- » コアエンタープライズソフトウェアのアップグレードのコスト、中断、リスクを回避
- » OS とアプリケーションのロードマップをビジネスニーズに合わせて個別に調整
- » 強制アップグレードを回避し、アプリケーションの寿命を延長
- » 既存のアプリケーションで OS の進化を活用可能に
- » アップグレードや回帰テストではなく、ミッションクリティカルなプロジェクトに貴重な IT リソースを振分け

ERPシステムは最新のオペレーティングシステムで実行する必要があります

特定の技術スタックでテストされた専用のエンタープライズアプリケーションの展開が増加すると、基盤となるオペレーティングシステムをアップグレードする際の課題となります。

技術スタックコンポーネント (OSバージョンを含む) の変更によってアプリケーションに問題が発生した場合、ソフトウェアアプリケーションベンダーは、一般的にパッチまたはアップグレードを通じてアプリケーションコードを変更して対応します。環境内でアプリケーションをカスタマイズしている場合、この状況はさらに複雑になる可能性があります。

オペレーティングシステムは、セキュリティ、安定性、および監査への準拠を強化するために定期的に更新する必要があります。ただし、OS のアップグレードにはコストがかかり、混乱を招く可能性のあるアプリケーションのアップグレードが発生する可能性があります。

ユーザーの再トレーニングを必要とするアプリケーションインターフェースの変更や、トレーニングによってはデータ入力に矛盾が生じるリスクなど、他にも隠れたコストがあります。

リミニストリートのソリューション

Rimini Connect for OS ソリューションは、当社のエンジニアの深い専門知識を活用し、互換性の問題の解決をお手伝いします。当社は、エンタープライズアプリケーションをオペレーティングシステムから分離するソリューションを開発しました。エンタープライズアプリケーションの現在のバージョンは、基盤となるオペレーティングシステムが変更されても引き続き完全に機能し、Rimini Street によってサポートされます。そのため、オペレーティングシステムは、セキュリティ、コンプライアンス、またはサポートにおけるビジネスニーズに応じて、アプリケーションとは別にアップグレード

顧客の技術スタック



「ソリューションとサービスは簡単に実装でき、技術スタックのモダナイゼーションも図れました。システムのアップグレードを希望する SAP のカスタマーにはぜひお勧めしたいです。」

米国を拠点とする
大手リネン会社の
テクニカルリード

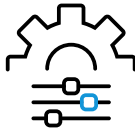
Rimini Connect for OS の仕組み

Rimini Connect for OS は、エンタープライズアプリケーションとオペレーティングシステム間のインターフェースを提供する常時稼働のソリューションです。この抽象化レイヤーがアプリケーションを分離し、基盤となるオペレーティングシステムの変更に合わせてシームレスに機能できるようにします。Rimini Connect for OS は、以下の3つのコンポーネントで構成されています。



ソフトウェア

エンタープライズアプリケーションとデータベースをサポートしてきた豊富な経験に基づいて、オペレーティングシステムが特定のアプリケーションと対話する方法を制御する一連のカスタム互換性ファイルとソフトウェアを開発しました。当社のソリューションにより、レガシーアプリケーションを新しいバージョンのオペレーティングシステムでネイティブに実行できます。



構成と設定

Windows だけでも150万を超えるレジストリキーがあるため、オペレーティングシステムの構成が必要になる可能性を考えると、気が遠くなります。当社の経験豊富なエンジニアは、オペレーティングシステムのアップグレードで新機能を最大限に活用しながらも、互換性とパフォーマンスをサポートできる最適な構成を把握しています。



ホスティングとクラウド

場合によっては、古いオペレーティングシステムにとどまることだけが選択肢ではありません。これは、オペレーティングシステムの要件が厳しい ISP ベンダーやクラウドプラットフォームプロバイダーに特に当てはまります。Rimini Street では、ホスティングクラウドプロバイダーと Rimini Street の両方がサポートできるオペレーティングシステムとアプリケーションの組み合わせを構成できます。

技術的側面を詳しくご紹介

Rimini Street は、この抽象化レイヤーを実装するために、エンタープライズアプリケーションへの取り組みとサポートに関する深い知識から得られた複数の技術を利用しています。ソリューションには、技術スタックに応じて、アプリケーションコンテナから OS 拡張にいたるまでのさまざまな技術が含まれる場合があります。以下のいくつかの具体的な例をご覧ください。

実例: SDB ファイルは、通常の Windows のパッチ適用プロセスの一部です。Rimini Street のエンジニアは、カスタム SDFファイルと、これらファイルをコンパイルするための方法論を開発しました。これらのパッチは、OS が対象アプリケーションと相互作用する方法を制御し、新しい OS 上でネイティブに実行できるようにします。

実例: セッション0のユーザー権限制御は、Windows オペレーティングシステムの後のバージョンで導入することができます。簡単なレジストリキーの変更で、従来の動作を再有効化し、すべての新しいセキュリティ強化でオペレーティングシステムのアップグレードが可能になります。

すべての Rimini Connect for OS ソリューションは、当社のエンジニアチームによって完全にサポートされています。



迅速かつ持続可能な結果

米国を拠点とする大手リネン会社は、ERP システムを Microsoft Azure クラウドプラットフォームに移行しましたが、これに際し、オペレーティングシステムを Windows 2012 にアップグレードする必要がありました。

これにより、クライアントの環境に問題が生じました。現行バージョンの SAP R/3 4.6c は、Windows 2012 と互換性がないためです。その結果、クライアントが Azure のメリットを活用するために ERP システムのアップグレードを余儀なくされかねない事態が発生しました。SAP のアップグレードの影響で、多大なコストとワークフローの中断が生まれる可能性がありました。Rimini Connect for OS で、このクライアントは次のことを実現できました。

- オペレーティングシステムを Windows 2003 から Windows 2012 にアップグレードし、より安全で安定した 64 ビットオペレーティングシステムが使用可能
- SQL Server 2014 への移行で高度なデータベース機能を有効になり、バックアップ時間が 66% 以上短縮
- コストと時間のかかる ERP アプリケーションの変更を回避

現時点でサポート対象の構成

サポート対象の構成のリストは常に拡大しています。

この他の技術スタックをご利用の場合は、当社までお問い合わせください。

アプリケーション	バージョン	オペレーティングシステム	バージョン (最古)	バージョン (最新)
SAP	4.x	Windows	2003	2016
SAP	6	Windows	2003	2016
Hyperion		Windows	2003	2016
PeopleSoft	ツール 8.48+	Windows	2003	2019
PeopleSoft	さまざま	RHEL	さまざま	さまざま

相互運用性の問題を過去のものに

Rimini Connect™ スイートは、現在と将来のアプリケーションに常時稼働の適応性を提供する契約と展開が容易なソリューションを提供します。

[Rimini Connect for OS の詳細はこちらから。](#)